



発行：救いの光教団  
編集：神成編集室  
東京都世田谷区北沢  
(☎155-0031) 2-22-10  
電話 代表 03(3413)0123  
http://sukui.jp  
毎月1回1日発行  
購読料 1部80円  
(会員の購読料は会費に含む)

2023  
No.613  
9月号

## 神言霊

### 信仰は信用なり

抑々宗教信仰者は世間無数にあるが、真の信仰者はまことに寥々たるものである。しからば私は真の信仰者とは如何なるものであるかを書いてみよう。

如何程立派な信仰者のつもりで自分は思っているかも知れない。でも主観だけでは何等の意味もない。どうしても客観的にみてのそれなくては本物ではないのである。そのような信仰者たるにはどうすればいいかという事をまず第一に知らねばならない。そうなるには理屈は簡単である。それは人から信用される事である。たとえば彼の人の言う事なら間違いない。あの人と交際をしていれば悪い事は決してない。あの人は立派な人である——というように信用される事である。

それでは右のような信用を受けるにはどうすればいいかという之も訳はない。何よりも嘘を言わない事と自分の利益を後にして人の利益を先にする事である。いわばあの人のお蔭で助かった。あの人につき合っていれば損はない。実に親切な人だ。あの人と遇うといつも気持がよい——というようであれば、何人と雖も愛好し尊敬する事は請

### 方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

合いである。何となれば自分自身を考えてみれば直ぐ判る。右のような人と識り合うとすればその人と親しく交際したくなり、安心して何でも相談である。今一つ言いたい事は、どんなによくしても一時的ではないけない、丁度米の飯と同じよう一寸は味がでないようだが長く噛みしめれば噛みしめる程味が出てくる。人間は米の飯とは一日も離れる事は出来ないと同じように私は常にいうのであるが、人間は米の飯人間にならなければいけないと。

処が世間を見ると、右とは反対な人が余りに多い事である。それは態々信用を落すような事を平気でする。何よりもじきに尻からばれるような嘘をつく、一度嘘をついたら最後の事はどんなに良くても一遍に信用は剥げてしまふ。全く愚の骨頂である。如何程一生懸命に働き苦み努力をしても一向に運がよくならない人があるが、その原因を探れば必ず嘘をついて信用をなくす為で、これは例外がないのである。全く信用は財産である。信用さえあれば金銭の不自由などは絶対にない、誰でも快く貸してくれるからである。

以上は、人間に対しての話であるが今一歩進んで神様に信用されるという事、これが最も尊いのである。神様から信用されれば何事もうまくゆき歓喜に浸る生活となり得るからである。

(昭和二十四年六月十八日)



### 御真筆『楽園』

ちようどいいということが天国、極楽になるのです。楽園とは平和と繁栄、幸福のみが存在し、充足した場所である。



## 会長訓「彼岸の御供養」

会長 大沼 泰彦

蟬時雨も収まって、秋の

とですね。」と仰って、彼岸の先祖供養の大切さをお諭しされています。

虫の声が聞こえるようになってきました。日中はまだまだ暑い日が続きますが、朝夕は少しほっとする風を感じられます。例えば長月お彼岸月です。七、八月と教団は盂蘭盆会の御供養として、特に日頃慰霊祭や、御仏壇に帰れない御先祖様に対し、懇ろな御供養をさせていただきまし

た。またご家庭でも迎え火を焚き、御先祖様をお招きしてお盆の家庭慰霊祭をお仕えされたことと思います。

明主様は「彼岸の時は、太陽が冬至と夏至の真ん中を回る時で、ちょうどいい時なんです。このちょうどいいということが天国、極楽になるのです。つまり理想世界のことですね。彼岸の岸というのは「理想郷」の意味でしょうね。その時お墓参りをするということ、ちょうどいい時に先祖を祀るというわけで、これは理屈なしにいいこ

教団といたしましても、秋季大祭に併せ秋のみたまま祭りと称え、御霊様の御慰めの御祀りをお仕えいたします。御先祖様が霊界での位置を向上し、歓喜な生活を許され、そして私たち子孫を見守って下さいますように、誠心をもって御供養させていただきますでしょう。

教団の御供養の在り方としては、〇〇家先祖代々の永代慰霊供養をはじめとして、すでに永代慰霊を申し込まれて

いる方は追善永代慰霊供養の申し込み、生前個人永代慰霊供養の申し込み、未信徒さんの永代慰霊申し込みもお許しただいています。また月々の〇〇家先祖代々、年祭、慰霊、水子様の御供養申し込みをさせていただきます。

今月の神成紙に掲載されている三石さんの感謝奉告でも分かるように、御供養をさせていただこうと思った刹



慰霊祭祭壇

那、その思いは祖霊様に通じ喜びが自分に移写されるというように、ご先祖様は御供養されることを大変お喜びになられたことを学ばせていただきました。

お彼岸の入りには、皆さんでお墓参りに出かけられて、墓石や周りをきれいに掃除して、生前好まれた物をお供えし、お花、線香を手向け、準備ができたなら善言讃詞奏上、神歌を奉唱し御慰めの思いをお捧げください。きつとお喜びいただけたと思います。

## 感謝奉告

三石 公夫

〈東京教会 富士宮光導所〉

五十年も前のことですが、入信を許されて先生より祖霊供養の大切さの話を聞きました。仏壇の在り方のことも細かく教えて頂き、自家の祖霊様供養がなされてなくて、三石家の祖霊様は苦しんでいると思いました。

早いうちに明主様の教えに叶った御供養をさせていただかなければと思いましたが、なんせ家族は未だ入信していませんだったので、家族と相談することにしました。

恐る恐る相談して見ますと家族の者は、先祖様の事なら良いと言ってくれたので、早速教会へ行き先生に千手観音様御奉斎をお願いし、帰りに新しい御位牌も注文しました。

いく日か過ぎ、お位牌も出来上がって受け取り、家に帰ったその夜の事です。夕食を済ませ部屋に戻ると間もなく、何か今までに感じたことがない、喜びというか、嬉しいというかそんな気持ち、止めどなく込み上げてきて、

笑わずにはいられない心境になり、ついに声上げて笑いだしてしまいました。「あつはは、あつはは」何回も寝る極まで笑いが止まりませんでした。

もしその様子を両親や兄貴が見ていたら、頭がおかしくなったんじゃないかと思うくらいでした。

つぎの日、先生にその事をお話ししたら、「それは祖霊様が喜んでいるんだよ」と教えて下さいました。そんなこととてあるんだ。と不思議な思いでした。

それがまた最近同じことがあったのです。兄貴が他界して遺骨が、須玉輝霊光吉宝殿に納斎させていただいていますが、令和五年七月に七回忌を迎えることになり、教団に輝霊光吉宝殿での法要をお願いいたしました。

長野県飯田市から義理の姉と姪家族に来てもらってお参りするつもりでした。兄貴には息子がいますが、教会から離れてしまったので来てはもらえないだろうと、連絡をしませんでした。

法要の日が近づいたある日、夕拝の時に亡くなった兄貴からだろうか、「長男家族

にも連絡をするように」と知らせがありました。そして知らせなければと思った時から、あの時の感じが蘇ってきて、何かしら嬉しくて嬉しくてたまらない気持ちになったのです。声を出して笑うまではいきませんでした。：

結局同席することは断られましたけど、兄貴の願いに込めることができてすっきりしました。その電話をした後、不思議と私の足腰の痛みが楽になりました。祖霊様と自分の繋がりが、御供養の大切さを改めて感じさせていただきました。

大光明、明主様ありがとうございます。光守様日々のお祈りありがとうございます。



七回忌法要をお伝えしました



感謝奉告



園美さんと娘の結香さん

私は光の家で生を受け、幼い頃から祖父母、両親、兄弟と一緒に教会に参拝し、生活には欠かせない事だと当たり前のよう

松井 園美 〔浜松教会〕

昨年救いの光教団創立五十周年記念というおめでたい節目を迎えられました。余談ですが私も今年で五十年、教団と共に成長させていただいております。この喜ばしい事に感謝し、大変嬉しく思います。

人生谷あり、山ありでこれまでの私はおひかりを肌身離さず首に掛け、信仰しているのが当たり前、おひかりを身につけ、仕事忙しい、子供の事が忙しいと色々理由を付けては教会への参拝が遠のき、信仰してさえいれば大丈夫という気持ちでした。

私自身この一年半で気付かせ

て頂く大きな出来事がありました。昨年二月に新型コロナウイルスに罹患、娘も同時期に罹り自宅待機となっていました。

たが、お陰様で罹ることなく仕事復帰できました。コロナで自宅待機期間に毎日「大樹」や「神成」を拝読し、自己浄霊や娘が寝ている時にご浄霊をさせて頂いておりました。

私は少し声が出ない後遺症がしばらく残ってしまいました。が、二人共元気に復帰でき、御浄化を頂く事となりましたが、御浄化を頂く事で浄まってとても有難いことだと常に思うようにしています。

この御浄化を頂いて復帰させて頂いた頃より、今勤めさせているデイサービスで体験利用ができる制度があるのですが、このコロナ禍で系列施設では、ご利用者様離れが増えている中、私が勤めさせて頂いている介護施設デイサービスの体験利用をしたいとのお問い合わせが殺到し、自施設だけ高稼働で常に六

十、六十五名のご利用者様が利用して頂き、そのときは私自身、特に思っていませんでしたが、改めて御守護を頂いたのだと思

い、感謝しかありません。ある時、私自身大きな壁に当たり、「何でこんなに上手くい

かないんだらう。何で変わってくれないんだらう」と悩む事が増え、精神的にも辛い時期がありました。そんな時、自分の中で人が変わっていくのを待つのではなく、自分が変わらなければいけないんだと思うようになり、今までの事を反省しどんなに忙しくても 教会へ行き、祭典補佐等のご奉仕など、出来る限りの御用をさせて頂くことにしました。

決して良い事ばかりではありませんが、一進一退で少しずつ良い方向へ向かわせて頂けるように、私自身浄めていきたいと思っております。

仕事中普段は事務所内勤務です。ので、デイサービスのフロアでの仕事はありませんが、必ず一日一回はデイサービスフロアへ顔を出し、一人一人お声掛けさせて頂き、その時必ず身体に手を触れるようにしています。少しでも手から伝わる光が届け

ばいいなという願いをこめて務めています。

日頃のご奉仕に参加させて頂くことはできませんが、常に感謝の気持ちを忘れず、私の出来る事をこれからもさせて頂きたいと思っています。

大光明様、明主様ありがとうございます。

光守様ありがとうございます。

担当教師コメント

山田 友子

松井さんは、産まれた時から信仰家庭で育ちましたので、子供の頃から教会こども祭等いつも参加されていました。

結婚で嫁ぎ、仕事、育児等多忙な日々が続く中、御参拝も一時遠のいた時期もありましたが、娘さんは練成会へは参加されていました。

暫く前から、感謝祭への御参拝をされるようになりましたが、明主様信仰がしっかり、身につけているものと嬉しく思いました。

これからも、今の思いを忘れずに、掌からお光をまくばり、進んで頂きたいと思います。

トピックス 第四回鋸山登山



地獄のぞきから眺める風景

七月四日に東京・浜松教会信徒の他、神務役員の会長、宮内、山田の参加で行ってきました。この時期気になるのが天候です。関東地方はまだ梅雨明けしておらず、不安定な天気が続いていました。

どうか晴れてほしいと今まで以上に強く願い、皆さんの思いが通じたのか、当日は夏らしい良い天気となり、時間が経つにつれ太陽も燦爛と照りつけてきました。

午前九時に東京教会を出発。道中の物珍しい景色に盛り上がりながら順調に鋸山駐車場に到着、階段や坂道を登り十州一覽台・百尺観音・地獄のぞきと山頂展望台など、山頂部の名所を全て見て回りました。その日の眺望は素晴らしく、綺麗な海と山の緑を背景にしながら何枚も写真を撮りました。

その後はせっかくなの



千五百羅漢道にて

の主要な場所は制覇しフルコースで歩き切ったので、参加者の中にはヘトヘトになってしまった方もおりました。晴天により暑さを心配していましたが、鋸山山中は木々が生い茂っていたことで適度に涼しく、過ごしやすい陽気の中で皆大変満足したハイキングとなりました。帰路は交通渋滞も無く、予定通り東京本部に十六時頃到着しました。様々な好条件が揃った最高の締めくくり鋸山登山となりました。御守護を頂きました大光明・明主様には心より感謝申し上げます。



## 『最後の日』

## 光守の思い

次の「神成郷からの報告」を読んで下さいませ。

## 足元（番外編）

七月二十八日八時三十分、前日から神成郷に詰めている境顧問から電話がありました。「三十分後に、神成郷正面ゲートの金文字の看板を取り外します。大光明に御奉告をお願いします」という内容でした。

近々、この日が訪れることは、もちろん承知していましたが、実際に現実になりますと胸はドキドキ、たくさんのことを考え思いだして御神前で祝詞も涙でつまってしまいました。

昨年末に、終い納めの儀式は執り行ないましたが、『神成郷』の表札が外れる現実には、衝撃が大きく、しばしの落胆を味わいました。

ただ感傷に浸ってばかりはいられません。『散花結実』の教えを胸に、次に向けて第一歩を踏み出さねばなりません。当日の夜、須玉から東京に戻った境顧問から、その看板を取りはずす状況や、心のうちを書いてもらおうとお願いしました。



光守様と本部御神前の生花

そう考え、そして実行すると、本当に気持ちの良い気分になります。朝青龍の言葉を知り、これからは豊昇龍を応援してしまうかもしれません。

近年は、NHKの大相撲を観戦することが常となりました。未だに力士の顔と名前が一致しませんが、行司呼び出しの所作、華やかな着物姿の観客席、懸賞旗など立ち合い外の時間も見どころいっぱいです。

名古屋場所所で元横綱朝青龍の甥っ子豊昇龍が優勝し、大関昇進を決めました。「元横綱の甥っ子」という重圧をはねのけての快挙でした。

テレビの報道で豊昇龍が入門時、おじの朝青龍から掛けられた言葉に注目が集まっています。

「頂上ばかり見ないで、しっかり足元を見なさい」あのヤンチャな朝青龍にしては意外な言葉です。もしかして自身の反省の上での言葉かもしれません。もちろん私にも今になってこそ分かるたくさんさんの反省、その反省の上で、言い聞かせていることは、「しっかり足元を見て出来る範囲で行動する」ということです。

神成郷からの報告  
『S』の金文字

週に一度のペースで須玉神成郷の保守、管理業務に通っています。四千坪の広大な敷地での一人作業は余計な事を考えぬ様、効率的に限られた時間を使おうと、無駄の無いタイムスケジュールの中で雄大な景色を楽しむ暇ありませんが、十一時〜十三時までは、第一研修室のソファーに深く腰を落とし、南アルプスの稜線を薄目に見ながら鳥のさえずりを聞き至極のお昼寝タイムを頂いています。

初めてここ須玉を訪れたのは、今から約四年前末信徒の業者としてです。それからの経緯は省略しますが、自分がここ須玉に居ることの不思議さについてはもう考えないようにしています。多くの方の思いが詰まったこの建物、運営時にはそこに居なかった私にはその思いは伝え聞く話、神成紙の記事などからしか推し量ることはできません。ここ須玉に居る間、ある女性の存在を感じています。その方とは数える位しか、お話ししたことがありませんが、現世にいらっしゃれば四十才のその女性に五年ぶりにお会いしたのは、東京本部内の光守様の部屋に安置された十二尺程の観音像の右側にある遺影とでした。

その観音様は今、輝霊光吉宝殿に如意宝珠蓮華座の代わりに奉斎され、その女性も眠る輝霊光吉宝殿の御霊様方をお守りしています。

その女性のお母様と懇意にさせていただいており少しずつ、少しずつ彼女の思い考えを聞く事が出来る様になりました。激痛で寝込んだ東側の和室、このステージでの熱弁、この研修室での講師との意見の対立、この食堂で夜遅くまでのディスカッション……

教団に対する期待と失望感、歯痒さ……

七月二十八日朝、重厚な正面ゲートの上に金文字で記した、救いの光教団 神成郷の看板を取り外す日が参りました。

着手する三十分前、光守様に電話でお伝えし、大光明、明主様への御奉告の時間を待つて、会長はじめ役員に連絡を取り、ゲートに上りました。

一人での厳粛な作業は緊張が高まります。神成郷の前を通り過ぎる車がスピードを急に緩め様子を伺っています。約二時間半、最後に残ったのは『S』の文字。

作業手袋を外し、明主様と、多くの信徒さんの思いそしてその女性に手を合わせてから『S』の文字を取り外し終えました。文字どおり表札が外されたこの建物。

小さくても良いからステップアップの『S』であればいいのに、すべてがお仕組であればいいのにと願わずにはいられませんでした。



最後に残った『S』の金文字

境

岡田茂吉  
の  
自然農法稲の生育状況とNPO  
無肥研からの視察

最終の水田除草後、根を傷めて稲の生長が阻害されないよう水管理だけを行っています。最初貧弱だった稲は元気に生長し、七月までには青々と茂りました。

七月十五日に、NPO無施肥無農薬栽培調査研究会より、毎年恒例の水田の視察が行われました。京都黎明教会所属の担当者二名による視察でした。当水田にて状況確認をしながら様々な情報交換が行われ、「今年もとても綺麗に除草ができていますね」とお褒めの言葉を頂きました。

皆様からのご協力があつてこそ稲栽培が成り立っています。今年も除草作業にご協力頂いた皆様にご心より感謝申し上げます。



元気に育った稲



NPO 無肥研役員の視察